

## 「JSL バンドスケール」

### Q&A

Q1 JSL バンドスケールのレベルは、到達目標になりますか。

A: いいえ、到達目標にはなりません。

各レベルの記述内容には、そのレベルに該当する子どもの言語使用（日本語あるいは第一言語）の様子や、方略（ストラテジー）などの情報が記述されています。その特徴と照らし合わせて、子どもの日本語の発達段階を確定してください。次のレベルの特徴を目標値として子どもを指導する必要はありません。身長測定器が2メートルまで測定可能であっても、子どもに2メートルまで伸びなさいと指導しないのと同じです。

Q2 記述文を点数化できますか。

A: いいえ、点数化することはできません。

JSL バンドスケールは、子どもの日本語の発達段階を把握するために、「やりとり」が細かく記述されていますが、その一つひとつの記述文を点数化しても、「ことばの力」の全体的な把握に繋がりません。なぜなら、「ことばの力」は動的なものだからです。

Q3 JSL バンドスケールは、教師の指導力を評価することに使用できますか。

A: いいえ、使えません。

JSL バンドスケールは子どもの日本語の発達段階を把握し、どのように指導するかを考えるために考案されたものです。このJSL バンドスケールを、教師の指導能力を評価するために使用することは「正しい使い方」ではありません。

Q4 JSL バンドスケールは、文部科学省が行なっている「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ状況等に関する調査」で使用されるカテゴリー（「日常会話に支障あり」「教科指導に支障あり」など）と同じですか。

A: 違います。

文部科学省のカテゴリーは、調査統計を効率的に行うために設定されたもので、一般的な経験知による机上のものです。研究や実践に基づいて設定されているわけではありません。したがって、両者を結びつけて考えることはできません。そのような使い方も、JSL バンドスケールの「正しい使い方」ではありません。

Q5 「取り出し指導」をやめる目安になりますか。

A: 「取り出し指導」をやめるかどうかの判断は、学校の態勢や子どもの様子などによって異なりますので、どのレベルが「取り出し指導」をやめるレベルとは断定できません。

できるだけ早く在籍クラスで他の子どもたちと一緒に学ぶ時間を増やすことは大切です。しかし、初期指導や子どもの日本語の発達段階によっては、「取り出し指導」を集中的に行い、特別に配慮された指導を行うことも大切です。したがって、どのレベルで「取り出し指導」をやめるかは、それぞれのケースで異なります。このJSL バンドスケールは、日本語指導担当者と在籍クラスの担任など、

複数の教師の間で、当該の子どもの日本語の発達段階について共通理解をもって、「取り出し指導」で、あるいは在籍クラスで、どのような指導をしたらよいかを考えていくために開発されているのです。

Q6 子どもの日本語の発達段階を見るためのテストを作ることはできますか。

**A: いいえ、作ることはできません。**

テストは実践と切り離された一時的なものです。したがって、もしそのようなテストを行っても、そのテストによる結果は一時的な意味しかありません。「測定的なテスト」を対話的な方法でやれば教育的だと言う人もいますが、それも一時的な、つまり、その場だけの固定的な結果しか生み出しません。

別の言い方をすれば、JSL バンドスケールは、テストで子どもを「測定する」考え方に立っていません。日常的な多様な実践を通じて、子どもの「ことばの力」の多様な側面を把握することが、子どもの総合的（ホリスティック）な実態の理解につながると考えます。そもそも、「ことばの力」は、簡便な、一時的な方法で把握できるものではありません。

また、JSL バンドスケールは、バイリンガルの子どもの育成することを旨とするツールではありません。つまり、レベル7あるいはレベル8へ届かない子どもを、「失敗例」と捉える見方に立っていません。したがって、テストを作ることは考えられません。